

三浦かおり

2005年京都造形芸術大学卒業。

2012年ごろより仕事をしながらレジデンスやシェアアトリエに参加し、制作・発表する。

普通の生活の中で感じる「気配」「余韻」「痕跡」という曖昧なものに対して、気になるかどうかの境目、その存在を確かめるために、分解したり再構成したりして形を変えたり、形のない物は視覚化し再認識できるように身近な素材を使って表現している。

●個展

2016 「いしきのそとのダンペン」(谷中:HAGISO)

「白い堆積」(銀座:Gallery Camellia)

2015 「unknown time」(銀座:Gallery Camellia)

2013 「記憶の果て」(鶴の木:Gallery Hasu no hana)

●主なグループ展

2017 春爛乱(横浜:MAZE Studio)

2016 いわきまちなかアートフェスティバル 玄玄天(福島県いわき市)

Japan im Palazzo(スイス:Kunsthalle Palazzo Liestal)

Winter Garden(横浜:赤い家)

2015 中之条ビエンナーレ(群馬県中之条町)

SICF16(青山:Spiral Hall)

第5回東京アンデパンダン展 受賞者展 二人展 「存在の気配」(木場:Earth+Gallery)

2014 新・港区ハンマーヘッドスタジオ 「撒収!展」(横浜)

第5回東京アンデパンダン展(木場:Earth+Gallery)

2013 中之条ビエンナーレ(群馬県中之条町)

●活動拠点とレジデンス

2017 BankART AIR PROGRAM 2017(横浜:BankART Studio NYK)

2015-2017 宇徳ビル「ヨンカイ」(横浜)

2014-2015 Atelier Inner Cube(東京)

2012-2014 新・港区ハンマーヘッドスタジオ(横浜)

2012 BankART AIR PROGRAM 2012(横浜:BankART Studio NYK)

2017/05/08-24

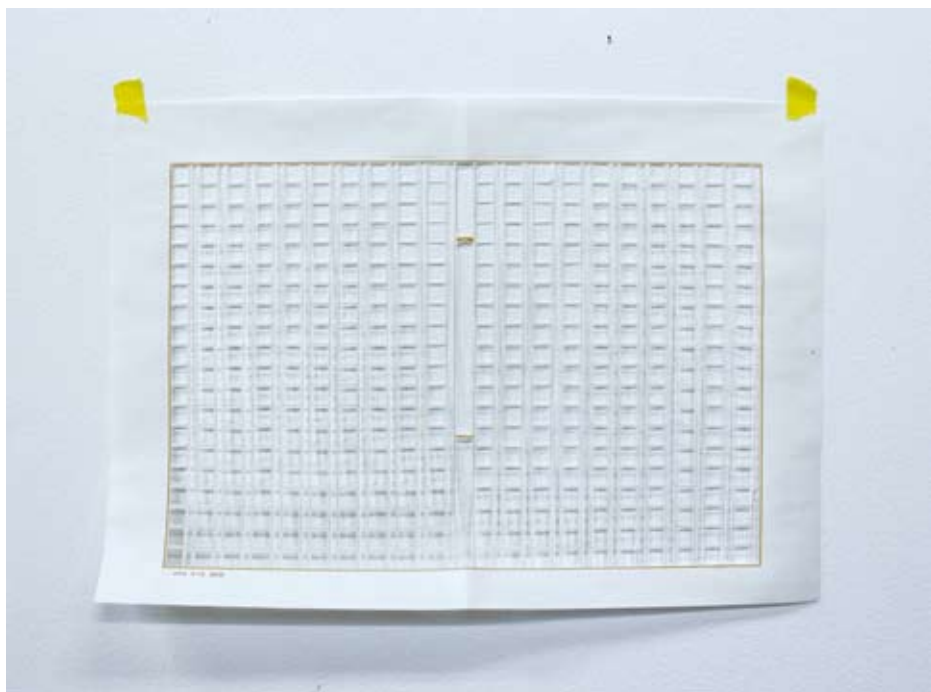
kaori miura exhibition
at Gallery Hasu no hana

Gallery Hasu no hanaでは2017年5月8日(月)~24日(水)まで、当ギャラリーでは2回目の個展となる三浦かおりの展覧会『フツフツのそれが消えるまで』を開催いたします。

三浦かおりは、人、物、場所などが持つ記憶、残る痕跡、気配、余韻といった曖昧な正体を捉えようと、身近な素材を壊したり組み立てたりして制作するアーティストです。

「存在感のない記憶が、どのような形で、どれくらいの重さで、どう今日に作用しているのか。」という疑問を制作の基軸にしており、近年では文庫本を用いたシリーズや布を縫製し場所の記憶などを重ねた作品を発表してきました。三浦の作品を見ると、とりわけ文庫本のシリーズでは、彼女がアーティスト活動だけではなく普段一般企業の中で社会人として過ごす時間がある、というのは留意しておきたい点です。

本展『フツフツのそれが消えるまで』では、通勤電車など周りを見渡したときに三浦が感じたこと一人々が日々を過ごす中で何かしらの沸々と胸に湧いてくることを抱え、その出口を探している一をすくいあげ、起因となっている社会的背景からその正体を探ってゆきます。



三浦かおり展『フツフツのそれが消えるまで』

2017年5月8日(月)~24日(水)

open: 月・火・土・日 12時~18時

水・金 15時~22時

close: 木、5月20日(土)

入場料: 400円

その他: 併設喫茶あり(展示スペースとは分かれています。)

問合せ: e-mail hasucafe@sw.sub.jp tel: 03-3759-8470

会場: Gallery Hasu no hana

アクセス: 東急多摩川線鵜の木駅より徒歩1分。改札を出て左方向へ進み、交番のある信号を渡りさらに左に進み、長屋商店の5軒目です。

www.hasunohana.net



左上

見えない記憶

2016 布、糸 サイズ可変 Japan im Palazzo 会場風景
スイス: Kunsthalle Palazzo Liestal

左下

記憶テープ

2002, 2012 文庫本、リール、虫眼鏡、机
W600×D300×H910

右

溜め込んでいる言葉1(「音のない文字」のシリーズより)
2013 φ15×H40 文庫本、ピン

表紙

意識の外の断片

2016 W2700×D500×H1600 文庫本、シュレッダー
「いしきのそとのダンペン」会場風景 / 東京: HAGISO

